

もくじ

- 一年を顧みて…… 1
- 事業活動報告 …… 2~4
- 駒王中だより …… 5
- 宮田小だより …… 5
- 認定こども園 …… 5
- まちのコイン …… 6
- 宮田の昔④ …… 6



宮田学区  
コミュニティ推進会  
第121号  
令和6年4月5日発行  
〈発行責任者〉  
岩間 廣道  
〈編集〉  
広報部



お変わりなく、お元気で過ごしのことと存じます。本年1~2月ごろにかけて、静岡の河津桜と並び、わが日立市の固有種「日立紅寒桜」がメディアに取り上げられ、遅まきながら全国に少しずつ知られてまいりました。



当推進会の会員の皆様におかれましては、

宮田学区コミュニティ推進会  
会長 岩間 廣道

宮田学区コミュニティ推進会  
この一年を振り返って

ほかに、3月ごろに開花予定の「小木津やよい」や5月に咲き誇る八重品種の「ひたち雅」が日立固有種のサクラであり、4月の「染井吉野」とともに故郷日立を彩ります。今、この記事をご覧になられている皆様の目の前には、サクラ吹雪が風に舞い踊っているのではないのでしょうか。さて、令和5年度を振り返りますと、当推進会が計画した事業（イベント）はほとんどが達成されました。コロナ禍以前に戻ったことで行動制限がなくなり、イベント間のスケジュールがタイトになりました。また、宮田小学校創立150周年記念事業、2年に一度の推進会役員選挙委員会が重なり、さらなる日程調整を続け、結果、役員・専門部・支部長の方々には大変なご苦労を強いることになり、心から感謝いたします。令和5年度も各支部や専門部からは「若い人材が欲しい」との声が頻繁に寄せ

られました。原因は、日本中で声高に言われている少子高齢化が原因でしよう。



昨年、日立市では728人の新生児が誕生しました。市内には、小学校学区を基盤とした23のコミュニティ単会があり、単純計算で単会あたり31人となります。現在、計画が進められている「学校統合」もやむを得ない状況なのでしょうね。支部（各町内会）からの新しい人材発掘が必要との意見も同様なのだと考えます。当推進会でも、支部からの専門部推薦者数を減らすことを検討いたします。そして「高齢化」ですが、日立市の高齢化率は33%です。3人に一人がそうなのです。「もう、年だから」は活動拒否の理由にはならず、「歩けない」、「歩いたら転ぶ」、「物が持てない」、「よく見えない」等々の具体的な理由でお話するのがよいかも知れませんね。「人生100年時代」なら70~80歳代の高齢者とともに「住みよい町・宮田」にしてまいりましょう。



今年の干支は「辰」です。辰は「振るう」という文字に由来し、自然万物が振動し、草木が生長して活力が旺盛になる状態を表します。辰は、竜（龍）のこともあり、十二支の中で唯一の空想上の生きものです。中国で龍は、麒麟、鳳凰、靈龜と並び、靈獣の一つであり、皇帝のシンボルでもありました。日本において龍の存在が記されるようになったのは、弥生時代とされています。日本では、古くから水を司る存在として「蛇」が神聖視されていました。こうした蛇信仰に、中国から龍が伝わり、両者

は一部が習合していくようになります。普段、「干支」を「え」と呼んでいますが、本来は「かんし」と読みます。日本では陰と陽を兄弟に見立て、「兄（え）」と「弟（と）」に由来していると言われています。龍が、なぜ十二支に加えられたのかはわかりませんが、何かロマンを感じさせますね。

〈M・T〉



# グラウンド ゴルフ大会

晴天に  
恵まれた  
**文化体育部**

昨年12月9日(土)、宮田小学校において「令和5年度宮田学区コミュニティ会長杯グラウンドゴルフ大会」を開催しました。

当日は、31名の方々が参加してくださいました。まずは、コース作りからです。宮田GGCの方々の協力も得て、立派なコースが完成しました。岩間会長が始球式を行い、いよいよスタート。競技方法は、2ラウンド



ド(8ホール×2回)のスコアで競います。ホールインワンを出すと1回につきマイナス3打になり、成績アップにつながります。

競技結果は、男子の部で鈴木信一郎氏、女子の部で石堂寿子氏が接戦を制して優勝しました。石堂氏は前回も優勝しており、2連覇を達成しました。

今後、春・秋の2回を予定しています。また、初めての方でも大歓迎です。ぜひ参加して、グラウンドゴルフの楽しさを味わってみませんか。

部長 大和田豊克

## 初登場 ジャズ講座

2023年も押し  
**生涯学習部**

し迫った12月9日(土)、当初初となる「ジャズ講座」を開催しました。

当日は、参加予定の30名を上まわる35名が宮田交流センターに集い、緊張のうちに開演です。何せプレイヤーもコロナ禍以降は初演で、またゲストも久しぶりという演奏鑑賞でした。

1曲目《モーニン》、2曲



目《オーバー・ザ・レインボー》が流れ始めたころからゲストの身体が揺れはじめ、イベントを企画してよかったです。胸をなでおろした記憶があります。

休憩時間に入り、ゲストから「次回は、いつごろやるの?」とか、「この企画、定例化した方がいいよ」などど声をかけられ、胸が熱くなったりもしました。

コーヒーとクッキー付きとはいえ、500円の会費をいただいていたのイベント企画です。ゲストの満足感を満たしてもらったの閉演にこだわったプレイヤーの方々に深く感謝いたします。

部長 岩間廣道

## さくら教室

1月26日(金)、  
**生活環境部**

宮田小学校で初めて「さくら教室」の講習会が開かれました。当日は、まず5年生が講習を受け、その後私たちが交流センターのメンバーの順で実施されました。

対象の木は、東門の所にある古木で、桜の木は枝の広がりと同様、根っこも広がっていることを初めて知りました。幹から1mほど離れた円と枝張りの円から1m間隔で深さ30cmの穴を掘り、クルミと同じぐらい大きな樹木用肥料と掘った土にバークを混ぜ、埋め戻して完了。肥料が効き始めるのは、約一年後とのこと。

2月7日(金)、日鉱記念病院後ろの「桜樹の塚」で宮田・仲町・中小路コミュニティ推進会が参加して同様の作業が実施されました。

ここで、さくら課の方に次の2つの質問をしました。一つは「ひたち紅寒桜」



ひたち紅寒桜  
(小木津駅付近)

についてです。小木津駅の近くに1月末のころ咲く桜があったが、何という桜かわかりませんでした。花の特徴とこの土地にしかないとのことで品種登録をした結果、平成8年に農水省より種苗法に基づき、日立市固有の桜として「ひたち紅寒桜」と新種登録されました。現在、神峰公園や市役所のほか、公園などに280本が植えられています。もう一つは「平和通りの桜の管理方法」について。ここの桜は幅約2mのグリーンベルトの中にあり、周りはアスファルト塗装です。さくら教室のような施肥はできないのではないかと質問してみました。すると、さくら課の方々が施肥できるところまで剪定したり、根っこの状態も監視し、人の手による管理努力をしているとのことでした。

部長 大和田一雄



### 視察研修会

新型コロナのた  
生活環境部

め、3年目でやっと「視察研修会」が実現できました。30人の参加者を募りましたが、14人と半分ほどでした。12月13日(水)、交流センターを8時15分に出発。常磐自動車道を桜土浦で降り、11時30分ごろ最初の目的地の「自衛隊土浦駐屯地広域地域」に着きました。女性隊員の案内で「火砲館」を見学。野砲や榴弾砲など、日清・日露戦争時のものも含めた火器を見た後、野外展示場へ足を伸ばしました。次の施設見学は、予科練の「雄翔館」で、特攻隊員の遺品や出撃前に両親や妻



子に宛てた手紙が展示されていました。死を前にした心境が綴られた手紙は、涙なくしては読めませんでした。昼食を「鮎割亭」でとり、次の「小川芋銭記念館」(雲魚亭)へ。ここは芋銭の自宅で、遺品や書物が展示されています。近くの河童の碑を見たり、芋銭の墓で手を合わせました。

次は水戸方面に向かって「明利酒造」(別春館)を見学。安政元年(1855)ごろ創業の老舗で、日本酒、梅酒、焼酎がメインです。ここでお土産を購入し、記念写真を撮りました。車内では今日の視察研修を振り返ったりして、無事帰路に着きました。

部長 大和田 一雄

### 救命講習会

防災・防犯部

昨年12月13日(水)に「救命講習会」を実施しました。今回は交流センターの職員をメインに、防災・防犯部員併せて13名にて受講しました。命を救うための一連の行いを「救命の連鎖」といい、4つの輪で成り立っています。



① 一の輪「心停止の予防」は、成人では急性心筋梗塞や脳卒中の初期症状に気づき、少しでも早く救急車を呼ぶことです。

② 二の輪「心停止の早期認識と通報」は、突然倒れた人や反応のない人を見たら心停止を疑って大声で応援を呼び、119番通報とAEDの手配を依頼します。

③ 三の輪「一次救命処置(心肺蘇生とAED)」は、救急隊が到着するまでに心肺蘇生術、AEDによる除細動を実施します。

④ 四の輪「二次救命処置」は、救急救命士や医師による施術で心臓の動きを取り戻すことを目指します。

一般の方が行えることは①から③までで、これができることで救命の可能性が

### 味噌作り講習会

生活環境部

1月29日(月)、



高くなります。講習内容の多くの時間を③「一次救命処置」の実技に費やします。頭で考えるより、行動が優先されるからです。

交流センター内の安心と安全を守るために必要な知識です。皆さんも参加し、体験してみてください。

部長 藤原 則之

### 花いっぱい運動 定着化促進事業 認定される

豆をミンチ状にして塩と麴を混ぜ、未熟の味噌が完成です。各自3kgの味噌を持ち帰り、半年成熟させると食することができます。今回は定員を超える応募があり、来年度は定員もしくは回数を増やし、自家製味噌を味わえる機会を作りたいと思います。

令和5年度のチャレンジ茨城県民運動「花いっぱい運動定着化促進事業」において「宮田小学校東門沿いの花壇整備の活動」で応募しました。その後の審査の結果、当生活環境部も23団体の一つに選ばれ、認定書をいただきました。

この事業は、花壇作りを通じて地域住民がつながりを深め、美しいまちづくりを進めることで、自分たちの住む地域への愛着を育んでもらうことを目的に、全国で広く実施しています。

今後この認定を励みに、地域に愛される花壇作りを努めてまいります。

部長 大和田 一雄





## 健康長寿を願い まゆ玉飾りづくり

青少年育成部

1月20日(土)、宮田交流センターで「親子ふれあい教室」を開催し、伝統行事の「まゆ玉飾りづくり」を行いました。この行事は17年前から実施され、途中中止の時もありましたが、五穀豊穡や健康長寿を願って行われる青少年育成部の恒例行事の一つです。

まゆ玉飾りは、小正月に米や繭の豊作を祈って行われる行事で「もち花」、「成木もち」、「花もち」、「ならせもち」とも呼ばれています。カシ、ナラ、ワタノキ、ミズノキ、ヤマボウシなど

の木の枝に何色かに色づけた餅を刺し、門前や家中に吊るしたりします。

行事の準備として、近くの山へミズノキの枝を採りに行ったり、前日には餅つきの下ごしらえをします。スタップだけでは足りず、OBの方の手伝いも受けて赤・白・黄・緑・橙色の飾り餅を作っておきます。

いよいよ当日、色のついた餅を「土曜学校」の子どもたちや参加者と力を合わせ、大きな木にきれいに飾りつけます。持ち帰り用の小枝のものも作りました。

その後、みんなでお汁粉やきな粉餅などをいただきました。JWAYの取材もあり、後日放映されました。皆さんからは「きれいに飾りつけができた」という声や「なかなかできない経験させてもらった」、「また来年も参加したい」という話も聞きました。

これからも、この伝統行事を宮田学区一丸となって続けていこうと思います。

部長 大和田剛志

## 合同防災訓練を開催

小・中学生や地域住民661名が参加

防災・防犯部

関東大震災から100年、阪神淡路大震災から29年、東日本大震災から13年が経ちました。

コロナ禍で避難訓練が中止になったこともあり、教訓や記憶が徐々に薄くなってきました。昨年9月8日の台風13号の線状降水帯による集中豪雨は、後に日立市が国から「局地激甚災害」の指定を受けたほどの大きな被害をもたらしました。宮田学区では昨年11月25



日(土)、4年ぶりに「合同防災訓練」を日立市消防署の第1・第3分団、水道企業局の協力を得て実施しました。訓練は、駒王中学校の生徒や各支部(一次避難所)から宮田小学校校庭に集合して始まりました。

消防署第1・第3分団は小学1・2年生の「初期消火訓練」と「ポンプ車見学」の指導をしてもらいました。

また3・4年生は「防災クイズ」を、5年生は教室内で「食器製作(防災関連の食器を画用紙で作成)を行いました。6年生は体育館で「避難所開設訓練」を行いました。しかし、ワンタッチパーテーションはバネが強すぎ、中学生のサポートにやってみてもらいました。

小学生が教室に戻ってから、中学生は5グループに分かれ、さらに「避難所開設訓練」を実施しました。ダンボールパーテーション、ワンタッチパーテーション、ダンボールベッドの組み立てと収納訓練です。

「給水タンクの組み立て見



学」では、駒王中の1年生61名が行った後、参加者に見学してもらいました。

学区からの参加者は「発電機始動」、「投光器点灯訓練」をはじめ、車椅子やリヤカーを使つての「要支援者の救護訓練」や担架・肩かけによる「負傷者の救護訓練」を行いました。他に、緊急車輛の見学、防災グッズの展示もありました。

以上の訓練を661名の参加で行いました。この訓練が大地震発生時に役立つことを願っています。

最近の30年で「震度6弱が来る確率は50%」というデータもあります。それに相応した訓練も考えて入れていくのか、これからの防災は大変だと思えます。

実行委員長 堀江憲明



# 駒王中学校 だより

## 今年度を振り返って

校長 藤田 洋

昨年5月、新型コロナウイルス感染症が「5類」へと引き下げられて以降、様々な活動がリスタートした一年でした。

今年度、本校は「たくましさ」と「しなやかさ」の育成を掲げ、おおむね目標どおりの成果を上げることができました。心身を鍛え、粘り強く取り組む「たくましさ」と、多様性を認め、協力しながら問題を解決していく「しなやかさ」は、予測不能な現代社会を生き抜く大切な力であると考えています。この教育目標を達成するためにも、地域との連携は欠かせません。



業「土曜学校」や「宮田ふれあいまつり」、「地域防災訓練」、「小・中学校合同のあいさつ運動」、「日立風流物体験」など、地域に根ざしたコミュニケーション活動に多量にも関わったことは、生徒にとつて大きな成長につながりました。ありがとうございました。

# 宮田小学校 だより

校長 大島 靖子

## 「いちよんツバメ」と共に

「創立150周年」があらゆる面で学校生活の中心であった令和5年度でした。

5月の航空写真撮影から始まって、子どもたちにもわかりやすいリーフレットの制作、記念運動会・記念事業「餅まき」と、いづれも保護者や地域の皆様のご協力なしには実現しませんでした。私たち教職員と同様に「子どもたちが喜ぶなら…」という思いでご尽力くださったこと、心より感謝申し上げます。

うございました。能登半島の震災に関するニュースで、復興に向けて立ち上がるとうとする皆さんの様子を見ると、改めて思えます。やはり「学校は地域の希望」であると。わが駒王中学校も、地域の皆様に元氣と希望を感じていただけるような学校経営をしてまいります。今後とも、よろしくお願いいたします。



また、子どもたちの投票で選ばれた記念キャラクター「いちよんツバメ」も学校内だけでなく、広く知れわたって可愛がっていただいています。今後も、宮田学区のあらゆる場面で「いちよんツバメ」が活躍できることを願ってやみません。この一年でさらに「ボクらの私たちの学校、宮田小学校」への愛着が深まり、より楽しい、よりよい学校にしようという機運が高まっています。どうやら150周年の最後に、もう一度全校児童で遊ぶ楽しい企画

# 認定こども園の 今年度を振り返って

市立みやた認定こども園 園長 滝 かおり

日ごろより宮田学区コミュニティ推進会および地域



を子どもたち自ら計画しているようです。本来、子どもたちにはこのように自ら考え、自分で行動する前向きなパワーを秘めています。150周年が、少しでもその力を引き出したことを非常にうれしく思います。

何かと行き届かないことも多く、ご心配をおかけしましたが、「地域の宝・子どもたち」のためにあらゆる方面でお力添えをいただいたことに職員一同、心より感謝申し上げます。

の皆様には大変お世話になりました、ありがとうございます。うございます。

コロナも「5類」に移行して制約も緩和され、少しずつ行動範囲も広がってきました。当園では、周りに多くの公園がある立地を活かし、体力づくりも兼ねて散歩を楽しんできました。春は桜を見学し、夏は木々に注ぐ心地よい風を感じることができました。また、秋は様々な彩りに変化する木々の不思議さにも、冬は落ち葉拾いを楽しみました。そんな地域の散歩が季節を感じる貴重な体験にもなりました。毎回、見たり感じたりした発見が子どもたちの感性をさらに豊かにしてくれました。そしてこの一年は、散歩することで地域のよさを知り、こども園の子どもたちが地域に育てていただいていることを再認識した年でありました。今後も園の環境を活かした保育を展開し、また地域の皆さんの日々のご協力に感謝しながら、地域に根ざした運営に努めていきたいと思っております。

# 地域とつながる 「まちのコイン」スタート

日立市コミュニティ推進課  
課長補佐 塙 明美

日立市では、おおむね小学校区を単位としたコミュニティが組織されており、宮田学区をはじめ、それぞれのコミュニティが「私たちの地域を住みよくしたい」との思いで、様々な活動を展開しています。

当コミュニティ推進課では、この日立ならではのコミュニティ活動をもっと多くの方に、特に若い世代に知っていただき、参加につながるための取り組みとしてスマートフォンアプリ「まちのコイン」を今年4



月16日(火)から開始します。

地域の防災活動や防災訓練に参加したり、イベントの手伝いをするなど、まちにいいことをすると「タッチ」と呼ばれるコインがもらえます。

もらった「タッチ」はお金に換えることはできませんが、交流センターで地域の方が作った野菜と交換できたり、かみね動物園で人気のイベントに優先参加できたり、駅前のカフェで特等席に座れるなどの「特別な体験」に使うことができます(時期により内容や提供できる数が異なります)。

まちのコインを通して、人と人がふれあい、地域が

つながり、日立市がますます住みよいまちになることを目指します。  
なお、現在サービス開始に向け、ご協力いただける店舗や団体を募集しています。私たちと一緒にまちのコインを盛り上げませんか。お問合せは日立市コミュニティ推進課(電話050-552815061)まで。

## 写真で見る 宮田の昔④

# 日立市の学校給食

日立市における学校給食は、第2次世界大戦後のアジア地域救済

のために衣糧などを援助したアメリカの民間組織、アジア救済連盟による補食給食にはじまります。

完全給食が開始されたのは昭和26年2月で、その先がけは旧日立市内の7校、助川・会瀬・宮田・本山・大雄院・仲町・中小路小学校でした。給食内容はパンとミルクとおかずで、補食給食は週3回、みそ汁か汁物に煮物でした。昭和30年に至って毎年1、2校ずつ



昭和37年当時の宮田小学校 給食調理室

完全給食に移行しました。

昭和31年1月には、旧市内の7校に自家製パン工場が設置されました。給食は、文部省が示す栄養基準量と食品校正に基づき、献立表を作成して各学校で作られました。児童・生徒が必要とする1日あたりの栄養所要量の3分の1以上の確保が計画されていました。昭和34年、宮田小学校は学校給食優秀につき文部大臣より表彰されました。当時の給食費は月額290円、補食給食では40〜50円でした。  
北部学校給食共同調理場(のち宮田学校給食共同調理場・現日立市立みやた認定こども園)が本宮町2丁目に完成したのは、昭和41年5月18日です。旧市内、日高、豊浦地区の小・中学校、職員約1万5千人分をまかないました。給食の内容を統一して共同給食を実施し、経費削減を図りました。この時、これまで脱脂粉乳のミルクに生牛乳を混合するようになりました。  
これまで学校給食を提供してきた宮田学校給食共同

調理場は令和元年2月、砂沢町の新しい調理場完成でその役目を終えました。学校給食費は、子育て支援の充実によって令和5年4月から無償になりました。

日立市郷土博物館  
研究員 萩原 明子

## 絵本でえいご ラボ・パーティ 生徒募集中! 随時体験会受付中! (幼児・小学生)

英語との出会いを  
素敵な絵本で楽しみましょう

指導: 佐藤 世津子  
☎ 080-5086-4521

QRコードから  
茨城県・日立市・宮田町で検索



## 編集後記

▼「宮田まなざし」第12号をお届けします。  
▼「ジャズ講座」の企画は回覧を使って会員へお知らせしましたが、町内会への未加入、回覧スピードが遅い等の理由で、すべての会員に周知できませんでした。▼申し込み期限切れや人数制限等により、参加できなかった方には、深くお詫びいたします。  
〈土龍〉